

令和 7 年度
学校関係者 評価報告書

令和 7 年 7 月 1 日

学校関係者 評価委員会

ホンダ テクニカル カレッジ 関東

1. はじめに

学校関係者評価とは、学校の自己評価の客観性・透明性を高め、学校と密接に関係する者の理解促進、連携協力による学校運営の改善を図ることを目的としています。具体的には、学校が策定した重点目標、計画の実施について自己評価を行い、その結果を踏まえ今後の取組方針などについて、学校が選定した学校関係者評価委員に説明し、教育活動、学校運営等に係る課題を共有し、今後の方向性に対する助言、評価を頂くことで、学校運営全体を改善していくことを目指しています。

学校法人ホンダ学園 ホンダ テクニカル カレッジ 関東（以下、ホンダ学園 関東校）においては、平成 26 年 10 月に学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を発足させ、令和 7 年度は、学校関係者評価委員会を 2 回開催、教育課程編成委員会を 2 回開催（第 2 回は 令和 8 年度評価へ向けて 12 月開催予定）する中で、委員の皆様から幅広い意見、助言、評価を頂きました。その結果を本報告書にまとめ、今後の教育内容や学校運営等の改善を図ってまいります。

2. 令和 7 年度 学校関係者評価委員会 開催概要

・日時：令和 7 年 5 月 19 日（第 1 回委員会） 令和 7 年 6 月 20 日（第 2 回委員会）

・場所：ホンダ学園 関東校 第 1・第 2 会議室

・評価委員 眞鍋 光毅(委員長) 株式会社ホンダモビリティ南関東
上席執行役員 埼玉カンパニー執行責任者
金子 明 ふじみ野市役所 総合政策部 部長
佐藤 雅則 株式会社オートテックジャパン
管理統括部 統括部長 兼 人事部 部長
木村 一年 本田技研工業株式会社 人事統括部 労政部
国内営業人事労政課 主事
関根 徹 ホンダ学園 関東校 後援会 会長

・学校出席者 勝田 啓輔 ホンダ学園 関東校 校長
横田 俊幸 教頭 兼 学務室長
池本 裕樹 教務部長
茂野 泰士 サービスエンジニア 1 課 課長
中野 健二 サービスエンジニア 2 課 課長 兼 教務部長補佐
沖田 健二 サービスエンジニア 2 課 課長補佐
奥 浩一 開発エンジニア課 課長
嶋 健司 教務部 教育企画グループ

【学校関係者評価委員会 会議次第】

<第1回委員会>

- ・委員紹介
- ・委員長挨拶
- ・校長挨拶
- ・令和6年度 学校方針に基づく運営実績報告
- ・質疑応答
- ・令和6年度 自己点検・自己評価報告書の説明
- ・今後の展開について

<第2回委員会>

- ・委員長挨拶
- ・校長挨拶
- ・第1回委員会議事録の確認、共有
- ・各委員からの質問/提言/評価委への回答
- ・令和7年度 活動計画
- ・教育課程編成委員会 状況報告
- ・施設見学
- ・委員会評価まとめ
- ・質疑応答
- ・今後のスケジュール

3. 令和7年度 教育課程編成委員会 開催概要

- ・日時：令和7年6月10日（第1回委員会） ※第2回は令和7年12月開催予定
- ・場所：ホンダ学園 関東校 第1・第2会議室

- | | | |
|--------|------------|--------------------------------|
| ・評価委員 | 岩間 一浩 | 一般社団法人 埼玉県自動車整備振興会
事業教育部 次長 |
| | 富田 英則 | 株式会社ホンダカーズ久喜 代表取締役会長 |
| | 中村 純一 | 株式会社ホンダプロモーション(ホンダカーズ川越)統括部長 |
| | 小松 由佳 | Astemo 株式会社 人事総務部ダイレクター |
| | 勝田 啓輔（委員長） | ホンダ学園 関東校 校長 |
| ・学校出席者 | 横田 俊幸 | 教頭 兼 学務室長 |
| | 池本 裕樹 | 教務部長 |
| | 茂野 泰士 | サービスエンジニア1課 課長 |
| | 中野 健二 | サービスエンジニア2課 課長 兼 教務部長補佐 |
| | 沖田 健二 | サービスエンジニア2課 課長補佐 |
| | 奥 浩一 | 開発エンジニア課 課長 |
| | 嶋 健司 | 教務部 教育企画グループ |

【教育課程編成委員会 会議次第】

＜第 1 回委員会＞

- ・委員紹介
- ・組織変更報告
- ・校長 挨拶
- ・令和 6 年度 教務部実績報告
- ・施設見学
- ・令和 7 年度 教務部活動計画
- ・質疑応答
- ・今後の予定

4. 令和 7 年度 学校関係者評価委員会の評価まとめ

第 1 回評価委員会において、学校側より、学園概況、教育内容、令和 6 年度の重点課題、重点目標の説明があり、本委員会における課題共有を図りました。同時に「令和 6 年度 自己点検・自己評価報告書」による評価結果の説明があり、質疑応答を通して意見交換を行いながら詳細に課題認識を深めました。

第 1 回評価委員会以降、各委員により「令和 6 年度 自己点検・自己評価報告書」を確認、評価し、重点目標に対する 提言 4 件、指摘 0 件を含め 全体で提言 51 件、指摘 1 件を行いました。（各基準の提言数と指摘数は、基準ごとに記載）

第 2 回評価委員会では、各委員の提言、指摘に対して学校側より回答説明があり、質疑応答及び意見交換の上で 学校運営結果を把握し、学校関係者評価委員会として 最終評価をまとめました。

令和 6 年度 自己点検・自己評価報告書 各基準の評価結果を以下に報告します。

基準 1：教育理念・目的・育成人材像等（提言：4 件 指摘：0 件）

教育理念は、「世界に歓迎される人間の育成」や「チャレンジ精神」などホンダらしさに溢れた素晴らしい理念です。ホンダの創業者本田宗一郎氏による学園創設の不変の思い「私は技術だけでなく、世界に歓迎される人間を作りたい」という精神が受け継がれています。学園の教育理念は、教職員はもとより、カレッジガイドやシラバス等によって外部にも広く周知されていると確認しました。学校訪問の際に、学生達は挨拶や身だしなみの基本マナーが出来ていると感じます。メーカー系の学校という強みは、教材や施設だけでなく、会社関係者の話を聞く機会など、様々な場面で特色が出せています。今後においても、本教育理念を貫き、世界に歓迎され、社会に歓迎される人材育成をお願いします。

基準 2：学校運営（提言：5 件 指摘：0 件）

中期方針のもと、時代に即した学校運営に取り組んでいることを確認しました。学園の価値を創出する教職員の育成への取り組みも評価できるものです。また、全国的に人材不足が懸念されている状況でありながら、関連企業の専門職を教職員として招聘するなど、質の高い教育水準の維持に向けた取り組みが成されています。目標は定量的・定性的に設定され、結果の振り返りから PDCA を回すことで改善を図られています。今後、安定的な学校運営基盤を構築していくには、課題認識している情報システム化等による業務の効率化が必要であり、効率化策の推進に期待します。

基準 3：教育活動（提言：5 件 指摘：0 件）

新機構、新技術などに対応したカリキュラムは、ホンダセンシング系の新規講義実施や多くの授業内容のアップデートを確認できました。技術のみに留まらず接遇マナー講座や安全運転講習、キャリア教育にも力を入れていることが伺えます。

CS アンケートや教育課程編成委員会からの提言対応を含めた時代に合った柔軟なカリキュラム変更、ソフト面ハード面含めての教育資源への投資、教職員への指導・啓発体制など、運営の良さを確認しました。

ただし、令和 6 年度は学生の交通事故・法令違反が増加しました。これらの遵守は車業界で働く上で重要なことですので、学生の意識向上に向けた取り組みをお願いします。

基準 4：教育成果（提言：5 件 指摘：0 件）

企業 CS で高い評価を得られており、総合的に高い教育成果が出ていると感じます。国家整備士資格の取得は二級登録試験 100%合格を維持できており、一級整備士資格の 100%合格に向けた取組み強化策も確認でき期待できます。令和 6 年度一級登録試験では 4 名が不合格（合格率 93.4%）となりましたが、やむを得なかったものと理解しつつ、100%合格へ向けてより一層の教育強化をお願いします。

就職希望者の内定率 100%は、素晴らしい結果です。第一志望内定率も年々向上しており、学生のやる気の向上にも繋がります。

退学者抑制の課題と対応策を全教職員で共有し、成績不振の学生に対する早期のフォローも実施されていることから、直近 3 年間の退学率が低減しています。学生の変化の予兆を早めに確認することで、さらなる退学率の低減に繋がってください。

基準 5：学生支援（提言：5 件 指摘：0 件）

就職相談、学生生活相談、経済的側面での相談などきめ細かく実践されており、学生相談室の設置、独自の奨学金制度の運用、外部カウンセラーによるメンタルケア等、学生支援の対応は十分に整備されていると認識します。また、老朽化が進む学生寮についても、入寮者に対する CS 調査が実施され、現状でできる住環境整備が実施されていました。

学生を成長させ達成感を持たせるためのカリキュラムが多数実施され、“自ら動き出す” “自信を持つ” “困難を乗り越える”といった狙いに、非常に有効な成果を上げていると考えます。

課外活動も充実しており、学生生活を豊かにしています。課外活動、部活動などは退学率低下においても有効と考えますので、引き続き活性化をお願いします。

基準 6：教育環境（提言：5 件 指摘：0 件）

教育環境整備としては、大事なリソースとして本田技研や販売会社などからの教職員確保、そして様々な外部研修などを通じて教員強化が図られています。また、ハード面も建物関連設備投資を始め、最新の教育設備や本田技研からの設備譲渡など整備を充実しています。研究開発で必要となる基礎技術技能習得に向けた設備導入が多数実施されています。EV バッテリに必要なリフトやファイヤーブランケットの設置なども進められており、時代に合った環境が用意されていることを確認しました。

今後はより環境問題に配慮した太陽光発電等の設備投資も検討して、教育に活かしてください。

基準 7：学生募集と受け入れ（提言：5 件 指摘：0 件）

学生募集については、様々な角度から施策を検討しており、高等学校との絆づくりを目的とした学校訪問や SNS による訴求活動が強化されています。若年者人口が減少していく中、目標未達とはいえ一昨年度の入学者数を上回ったことは一定の評価ができます。

さらなる入学者増に繋げるためには、地道な学校訪問活動、Z(a)世代に響く情報発信を継続することが重要であると思います。さらに販売会社との連携強化が加わる事で、ホンダの整備専門学校としてのプレゼンスが高まると考えます。

一方で 1 年生の退学者は昨年度も多い状況ですので、学生募集が難しい中ではありますが、入試時に「学び切れるかの見極め」を適切にお願いします。

基準 8：財務（提言：4 件 指摘：0 件）

財務状況については財務諸表のみならず、事業実績も含めてホームページで公表されており、また、外部監査人による監査も実施されており、予算計画と執行状況に透明性があり、経費の適正化も進められていることが確認できました。

今後も学生確保を重要課題として取り組み、自動車業界全体の人材育成という観点から、本田技研工業(株)を始めとした関連企業の賛助・協賛を引き続き獲得し、持続可能な学校運営を図ってください。

基準 9：法令等の遵守（提言：4 件 指摘：1 件）

学校教育法に基づいた専修学校設置基準を遵守し、法令等に関しては関係法令を遵守し、各監督官庁の指導の下に学校運営が行われていると確認できました。教育現場としては、特に個人情報保護の対策強化も重要です。引き続き適切な措置を講じ、学校運営を進めてください。

また、現場の管理監督者の悩み、ハラスメント教育に課題がある昨今、学生を指導する先生方もハラスメント対応などとても大変だと思います。引き続き取り組みをお願いします。

一方、学生の交通事故・交通違反の件数は増加しています。違反件数が大きく増加した状況を確認して、他人事ではなく自分事にするための指導、教育の推進をお願いします。

基準 10：社会貢献（提言：5 件 指摘：0 件）

小中学生の社会科見学の受入れ、ボランティアへの参加、地域の清掃や美化に取り組み、積極的な社会貢献活動が実施されていることを確認しました。小中学生への貢献は、将来の学生募集に繋がる取り組みと考えます。

学園が所在する自治体ふじみ野市と「包括的な連携協力に関する協定」を締結し、市民対象の講座やイベントなど、様々な分野で協力いただいています。今後も社会全体の利益を増進するため、地域に密着した活動の継続をお願いします。

5. 令和 7 年度 学校関係者評価委員会の総括

令和 7 年度の学校関係者評価委員会において、様々な意見や提言をもとに評価しました。また、教育課程編成委員会における意見も加味しながら、今年度の評価結果の要点を以下に明記します。

- ・創設者の建学の精神が受け継がれ、学園の教育理念は、教職員はもとより、カレッジガイドやシラバス等によって外部にも広く周知されていると確認しました。

- ・ 中期方針のもと、時代に即した学校運営に取り組んでおり、教職員の育成への取り組みも評価できるものです。また、関連企業の専門職を教職員として招聘するなど、質の高い教育水準の維持に向けた取り組みが成されています。
- ・ 新機構、新技術などに対応したカリキュラムは、多くの授業内容のアップデートを確認できました。技術のみに留まらず接遇マナー講座や安全運転講習、キャリア教育にも力を入れていることが伺えます。
- ・ 令和 6 年度は学生の交通事故・法令違反が増加しました。法令遵守は車業界で働く上で重要なことですので、学生の意識向上に向けた取り組みをお願いします。
- ・ 教育成果として、就職率 100%、国家整備士資格の取得は 二級登録試験 100%合格、一級登録試験は 93.4%合格を達成しています。一級登録試験 100%合格へ向けてより一層の教育強化をお願いします。
- ・ 退学者抑制の課題と対応策を全教職員で共有し、成績不振の学生に対する早期のフォローも実施されていることから、直近 3 年間の退学率が低減しています。さらなる退学率の低減に繋げてください。
- ・ 就職相談、学生生活相談、経済的側面での相談などきめ細かく実践されており、学生相談室の設置、独自の奨学金制度の運用、外部カウンセラーによるメンタルケア等、学生支援の対応は十分に整備されていると認識します。
- ・ 教育環境整備は、本田技研や販売会社から教員を確保し、様々な外部研修を通じて教員強化しており、ハード面も建物関連設備投資を始め、最新の教育設備や本田技研からの設備譲渡など整備を充実しています。研究開発で必要となる基礎技術技能習得に向けた設備も導入されています。
- ・ 学生募集は、様々な角度から施策を検討しており、高等学校との絆づくりを目的とした学校訪問や SNS による訴求活動が強化されています。若年者人口が減少していく中、目標未達とはいえ一昨年度の入学者数を上回ったことは一定の評価ができます。
- ・ 財務状況は財務諸表のみならず、事業実績も含めてホームページで公表しており、外部監査人による監査も実施されており、予算計画と執行状況に透明性があり、経費の適正化も進められていることが確認できました。
- ・ 学校教育法に基づいた専修学校設置基準を遵守し、法令等に関しては関係法令を遵守し、各監督官庁の指導の下に学校運営が行われていると確認できました。
- ・ 教育現場としては、特に個人情報保護の対策強化も重要です。引き続き適切な措置を講じ学校運営を進めてください。
- ・ ハラスメント教育に課題がある昨今、学生を指導する先生方もハラスメント対応などとても大変と思います。引き続き取り組みをお願いします
- ・ 小中学生の社会科見学の受入れ、ボランティアの参加、地域の清掃や美化に取り組まれ、積極的な社会貢献活動が実施されていることを確認しました。今後も社会全体の利益を増進するため、地域に密着した活動の継続をお願いします。

令和 7 年度もホンダ学園関東校の幅広い学校運営を確認し、今年度のアップデートを確認できました。自己点検・自己評価報告書では各領域について真摯に振り返り、高いレベルで実績をまとめられており、課題項目に対し更に学園を良くする観点で、様々な事にチャレンジしている事が理解できました。

今年度は創設 50 周年のイベント企画も進めており、「これまでの感謝と未来への意思表示」という明確なコンセプトに共感できました。今後時代が変わっても、ブレることのない“建学の志”を体現できる素晴らしいイベントになることを楽しみにしております。

今後も本田技研や協力会社からの支援を得ながら、学生の皆さんが自動車関連業界に夢を持ち続けられるように、引き続き学校運営をお願いします。